

市川市

誰もが住み続けたい
持続可能なまちを目指して

市川市は、千葉県の北西部に位置する人口約50万人の市です。江戸川を隔てて東京都と隣接しており、都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網が集中する利便性の高い住宅都市として発展してきました。

北部は、梨栽培などの農業が盛んで屋敷林などの緑も多く、また、数々の教育機関が集まっています。

一方、南部は、東京湾の最奥部に位置する三番瀬に面し、京葉工業地帯の二翼を担っているとともに、都会的な街並みが形成されています。

さらに、かつては下総国府が置かれ、神社仏閣などの歴史遺構も数多く存在し、様々な文人墨客に愛された文化都市としての側面も持ち合わせています。

昨年、市制施行90周年という節目を迎えた本市は、次の100周年に向けた礎を築くため、各分野で様々な取り組みを行っています。

これまで、未来を担う子どもとその家庭への支援のために、市立学校の給食費の無償化や第2子以降の保育料の無償化などを実現する

とともに、子どもを中心とした多世代が交流できる施設を新たに開館するなど、子育て環境の整備にも取り組んできました。

また、地域経済及び市民活動の活性化を図るため、市内のみで使えるデジ

タル地域通貨「ICHI CO（イチコ）」を導入しており、利用者・加盟店とともに拡大を続けています。



ほかにも、本年5月には環境省より脱炭素先行地域（第6回）に選ばれ、再生可能エネルギーの活用などを通じて、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速させています。

今後、誰もが健やかに安心して、そして希望を持って暮らし、住み続けたいと思える持続可能なまちづくりを進めてまいります。

佐倉市

「持続可能なまち・佐倉」の実現に向けて

佐倉市は、千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から約40km、成田国際空港から約15kmの距離にあり、面積は103.69km²で、北部は印旛沼、東部・南部は農村地帯が広がる中、工業団地が立地し、西部は首都圏のベッドタウンとして、豊かな自然と都市の利便性をともに享受できるまちです。

受けるまちです。

人づくり・体制づくり ―若者など多様な主体と連携したまちづくり―

昨年、市制施行70周年を迎えた本市では、市内5つの県立学校と包括連携協定を締結し、若者の発想と行動力を活かした数多くの記念事業を展開いたしました。これらを通じて、若者がまちに愛着を持ち、良いまちにしたいと願い、考え、行動することが重要であることを再認識するとともに、若者が主体的に参画できる環境づくりが急務であると痛感した次第です。

また、気候変動など広範かつ深刻な課題が顕在化する一方、財政状況は厳しさを増しており、学術機関など多様な主体との連携が、地域課題

解決のカギと考えております。特に、気候変動対策では、化学的な根拠に基づく市民目線での取組を市から発信すべきと考え、国立環境研究所などとの連携、協力を得て、県内市町村では初めてとなる気候変動適応センターを昨年4月に設置いたしました。

気候変動対策の推進

地球規模で進行する気候変動は、私たちの生活、経済、自然環境に深刻な影響を及ぼしており、これらに対処するためには、影響に備える適応と、原因を減らす緩和の両方の取り組みが不可欠です。本市は、市民の安全な暮らしを守るため、昨年の4月に策定した気候変動対策行動計画に基づき、適応策として、情報発信ESD教育による意識醸成、田んぼダム設置支援やクーリングシエルトー設置等、緩和策として、里山や森林の保全整備や住宅用省エネルギー設備等導入支援等を推進しています。



松戸市

多世代がともにいきいきと
思い思いに暮らすことができるまち
やさシテイ、まつど。

松戸市は、千葉県北西部に位置し、人口約50万人を擁する首都圏の住宅都市です。

都心から約20kmにあり、上野東京ラインの利用でJR松戸駅から東京駅まで最速24分で直通します。市内には鉄道駅が6路線23駅設けられ通勤・通学や日常生活の利便性に優れています。

都心に近い街でありながらも、みどりも多く、歴史や文化が現在も大切に受け継がれるなど、都会的な部分と自然の豊かさが融合する特徴のある街です。



全国「みどりの愛護のつどいを開催」自然と暮らす豊かさを実感できるまちづくりと、市民によるみどりの活動を進めてきたことで、市内にはいままも水やみどりの資源が豊かに残っています。

こうした取り組みが評価され、本年6月7日には、第36回全国「みど

東金市

「未来へ続くMY CITY 東金」の実現に向けて

新たな産業用地の整備でさらなる賑わいを

「上総の黄金町」と言われ、古くから九十九里地域の商業拠点として多くの人で賑わった東金市。さらなる賑わいを創出するため

に、現在取り組んでいるのが「産業用地整備計画」です。

用地買収、造成工事、企業用地の分譲まで行う民間事業者の募集と選定、アクセス道路の予備設計などが順次進められており、市内における産業活動の発展と雇用の創出により、まちの持続的な発展、活性化が期待されています。

「まち」の玄関をリニューアル。やがて新しい「まち」へ

市民の玄関口である東金駅。令和8年4月には念願の東口改札が設置されます。

まちへの大きな魅力づけ、さらには、未来への道標となることが期待されるなか、これを契機とした施策が進められています。

具体的には、東金駅から近接する

りの愛護」のつどいが秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと、21世紀の森と広場及び森のホール21で開催されました。

開催趣旨である「緑を守り育てる運動を積極的に推進する」という機運の醸成を図り、未来に貴重なみどりをつないでいきます。

東京ドーム11個分の自然尊重型都市公園

市中心部に位置する広大な自然公園「21世紀の森と広場」では、千駄堀池や野草園などの豊かな自然の中で季節の花や野鳥観察が楽しめます。「あそびのすみか」にはローラースライダーやネットクライムなど大型遊具も充実。バーベキュー場やカフェ、自然体験教室やクラフト教室など、子供から大人まで楽しめるスポットです。「松戸モリヒロフェスタ」や「松戸アートピクニック」などイベントも充実。ぜひ一度遊びにきてください。



市役所周辺地域を対象エリアとして、公共施設等の最適化を軸とした新しいまちづくりを推進しています。わくわくするような、新しい「とうがねのまち」の具現化はすぐそこです。

産官学連携による「とうがね発クラフトビル」

市内にキャンパスを構える「城西国際大学」。観光学部では、学生が主体となって、「大学オリジナルクラフトビル」を企画しました。



その中で、「副原料に、市の特産品である『プラム』を活用したい」との相談をきっかけとして、「東金プラム組合」「大学」「市」の連携による新たなプロジェクトが始まっています。

「大学」学生の想い、生産農家の想い、市の想い、魅力」といった、市に関わる沢山の「愛」を詰め込んだビールの完成は、今秋ごろの予定です。